

違う世界が芸のこやしに



関口達郎撮影

女優で元宝塚歌劇団花組娘役トップの蘭乃(なみの)はなさん(28)は中学から成城学園に入った。

部活動は演劇部。続けてきたクラシックバレエの表現にプラスになれば、と入部したが、ハードな筋トレや走り込み。演技指導でも先輩や卒業生から「何をやりたいかわからない」と厳しいダメ出しが続く「体育会系」だった。「芝居への価値観の土台を植え付けられました」

お笑い芸人やバンドが大好きだった中学2年のころ、友人の家で、初めて宝塚のビデオを見た。

「衣装や舞台は非現実的なのに、セリフや動きから、人間の感情が心に

蘭乃はなさん。6月末から東京、福岡、大阪、名古屋を巡るミュージカル「エリザベット」に出演する

響いてきた」

一気に舞台に引き込まれた。公演に通い続けるうちに宝塚音楽学校の受験を考えるようになった。高校に進むと本格的に準備を始め、宝塚受験専門の教室にも通った。

バレエで踊りの技術や立ち姿も磨いていた。教室の指導者は太鼓判を押してくれた。入学前から「宝塚に入りたい」ではなく、「娘役トップになり、トップが舞台でやることをすべてやりたい」という強い思いがあった。

高1の3月、試験に1発合格し、成城学園を去ることになった。「みんな心から喜んでくれて公演もずっと見に来てくれます。音楽学校は『職場』のような緊張感があったので、私の学生時代という成城学園なんです」

さまざまな舞台を見る中で、蘭乃さんが成城の

後輩として注目するのが、歌舞伎役者の中村米吉さん(23)、2011年卒)だ。

7歳で初舞台を踏んだ。歌舞伎の世界では学校はおまんま食わせてくれない」という考え方もあるが、父の五代目歌六さんの「芝居の世界しか知らないのはよくない」という方針で学業を優先。小学校から大学まで成城学園に通った。

芝居の役に立つかもしれないという思いもあって、高校では剣道部に入った。ただ、歌舞伎の稽古のため合宿も最後まで参加できなかった。段位審査も受けられなかった。それでも卒業まで続けたのは米吉さんの誇りだ。

学校の帰りに寄り道をしたり、美術の課題が終わらなくて居残りさせられたり、友達にも先生にも、特別扱いされることはなかった。同級生にいた能楽師と自分に、歌舞伎と能の違いを尋ねてきた友人に「歌舞伎をつまんなくしたのが能だよ、なんて、(能楽師の)あいつは答えてましたね」

「歌舞伎は『五十六はな垂れ小僧』の世界です。70代の先輩に『まだあと60年芝居できるんだねえ』と言われたりする。先は長い。学校で得たものがいつか役に立つんじゃないかと思っっています」(編集委員 吉田由紀)



26日まで東京・歌舞伎座で「四月大歌舞伎」に出演中の中村米吉さん

別府達郎撮影